

平成 29 年度大学コンソーシアムあきた 学生交流活動報告書

団体等名

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学

代表者

所属・学年 日本赤十字秋田看護大学 2 年

氏 名 岡村 美和

活動の名称（イベント名等） 赤十字みんなの冬季防災キャンプ
今年度の活動内容 「赤十字みんなの冬季学生防災キャンプ」 日時：平成 29 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）一泊二日 場所：日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 対象：大学生 60 名（日本赤十字秋田看護大学 26 名、日本赤十字秋田短期大学 18 名、秋田大学 2 名、秋田県立大学 4 名、国際教養大学 1 名、ノースアジア大学 1 名、日本赤十字豊田看護大学 1 名、秋田県立仁賀保高等学校 7 名） 内容：冬季の大規模災害発生時にライフラインが絶たれた状況を想定した防災キャンプを自ら実践し、避難所設営や炊き出し等、特に極寒の状況下での避難所運営に必要な様々な知識を学んだ。
活動の成果、今後の課題等 県内の大学生と高校生が集結し、冬季災害時における避難所支援を学ぶことができました。また、秋田魁新聞、毎日新聞、河北新聞を通じて活動の様子を秋田県のみならず東日本大震災で被害にあった宮城県へ東日本大震災の教訓を生かして、継続して災害防災活動を行っていることを発信することができました。今後の課題は、各大学のテスト期間等と重なり、参加意欲はあっても参加できない状況であった。しかし、高校生と交流が図れたことは、今後、大学生と高校生による、新たな学びの可能性を感じました。
経費の使用明細 調理器具、衛生用品、カイロ、防水スプレー、映像制作費(委託)

※記述が枠内に収まらない場合は、適宜枠を拡大してください。

※事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。

※報告書や関係資料は、各関係機関等に公表するとともに、大学コンソーシアムあきたホームページでの掲載を予定しております。

テント設営、けが人搬送

冬の災害に備え 役立つスキルを

日赤看護大 学生らキャンプ

冬場の大規模災害を想定した1泊2日のキャンプ合宿が24日、秋田市上北手の日本赤十字秋田看護大構内で始まった。県内の大学生や高校生ら約60人が参加。避難所設営や毛布を使った傷病人の搬送法



テントを組み立てる参加者

など、災害時に役立つスキルを学んだ。
災害への対応力を高めてもらおうと、日赤秋田短大介護福祉学科の及川真一助教が企画。2014年から毎年開いており、今回は5回目。

避難所の設営では、着替えや授乳などに対応してプライバシー空間を確保するため、2〜4人用の屋内用テントを使う方法を指導。参加者は2、3人のグループごとに素早くテントを組み立てた。運動会

などで使う大型テントの下に、プラスチック製の板で間仕切りを設ける方法も学んだ。

けが人の搬送法の講習では、日赤奥支部の指導員が担架を使わずに毛布でけが人を運ぶ方法を紹介。身長の高い人が頭の側の毛布を持つよう教えた。

参加者は、毛布をカウンのように羽織って暖を取る方法や、避難所で同じ姿勢を続けてエコノミークラス症候群にならないように足の指を上下に動かすことなども学んだ。

日赤秋田看護大1年の佐々木莉乃さん(19)は「避難者に不安を与えないよう支援する側が落ち着いて行動しなければいけない。災害現場で活躍できる看護師になるのが夢なので、今回得た知識を忘れないうちにしたい」と話していた。

きょう25日は雪上で行うけが人の応急処置などを学ぶ。

(阿部拓郎)